

JA菊池 キャトルブリーディングステーション



kikuchi no mamma

きくちのまんま

菊池地域農業協同組合

JA菊池 キャトルブリーディングステーションの取組みについて

当地域では、県内肥育牛の40%を占める一大肥育地帯であるが、肥育素牛を一部他県に依存する状況にある。

このため、以前より素牛供給減少に対応するため、繁殖基盤の育成に努めており、当初繁殖牛0頭から4,100頭まで増頭させてきた。しかし、近年肥育素牛の供給不足が発生し、年間に必要とする肥育素牛（黒毛和種）は5,000頭必要であり、肥育素牛全頭を確保できない状況にある。

繁殖農家での増頭や肥育農家の繁殖部門取り組みを推進しているものの、素牛価格の高騰により厳しい状況にあり、個人での取り組みは、ほぼ限界に達している。そこで、肉用牛の定量出荷の安定供給体制を行い、管内酪農家の規模拡大等による乳用牛育成の労働力負担軽減を図るとともに、併せて、乳用育成牛に黒毛和種の受精卵を移植し、受託者管内への肉用素牛の供給体制を確立し、乳用牛および肉用牛の生産拠点として実施することを目的とする。

※キャトルブリーディングステーション：地域の子牛生産拠点、地域の総合的な肉用牛振興推進上の核となる施設

キャトルブリーディングステーション事業フロー図

